

學童結核ニ關スル統計的調査

慶應義塾大學醫學部病理學教室(川上漸教授)

藤 井 省 三

緒 言

結核ノ臨牀學的診斷ニ對スル「ツベルクリン」反應ハ、嘗テハソノ聲價高カリシモ、諸家ノ研究一ヨリテ、漸クソノ意義ノ薄弱ナルヲ立證セラル、ニ至レリ。サレド近年更ニ公衆衛生學的見地ニ立脚シテ、再ビ之レガ檢討ノ試ミラル、ニ及ビ、多數ノ有益ナル業績ノ相踵ギテ發表セラル、ヲ見ル。

抑モ「ツベルクリン」反應ナルモノハ、個體ノ組織細胞ガ結核菌ニ侵サル、時、該組織細胞ニ起リタル特殊性對結核菌過敏症ノ現象一シテ、一種ノ生物免疫學的反應ナリ。人類ハ生後間モナキ乳兒ヨリシテ已ニ結核菌ノ感染ヲ受ケ、爾後年齒ノ長ズルニ從ヒテ、ソノ感染頻度ノ逐次高率ヲ示スコトハ、獨リ「ツベルクリン」反應成績ノミナラズ、病理解剖學上夙ニ學者ノ之レヲ是

認スル所ナリ。余ハ嘻々トシテ通學スル小學校兒童ニ於テモ、潛伏結核ヲ有スルモノ相當多數ナルベキヲ思惟シ、是レ等學童ニ就キテ「ツベルクリン」反應ニヨル調査ヲ試ミタリ。同時ニ反應陽性兒童ニ就キテ、「レントゲン」透視ニヨル胸部ノ結核性病變ヲ探及セリ。蓋シ「ツベルクリン」反應ノ陽性ナルハ結核感染ヲ意味スレドモ、必ズシモ個體ニ結核性病變ノ存在スルコトヲ意味セズ、即チ、結核病竈ガ治癒セルモノナリヤ、潜在性ナリヤ、活動性ナリヤ、或ハ結核病竈ガ個體ノ何處ニ存在スルヤ、如何ナル進行機轉ヲ探レリヤ等ニハ全く無關係ニシテ、從ツテ「ツベルクリン」反應ノミヲ以テシテハ結核性病變ヲ診斷スルコト能ハザレバナリ。

第一章 觀察方法

被檢者。被檢者トシテハ東京市立某小學校尋常科第4學年ノ男女兒童(10歳)ヲ選定セリ。同小學校ハ舊市内山手住宅地域ニ存在シ、生活環境ノ比較的良好ナル兒童ヲ收容セリ。兒童ノ保護者ニハ本調査主旨ニ關スル通知書ヲ送達シ、ソノ承諾書ヲ提出セシメタリ。「ツベルクリン」注射ニ先ダチ、被檢者ノ體溫測定及ビ健康診斷ヲ施行セリ。

検査術式。從來「ツベルクリン」反應検査術式トシテハ、軟膏反應、Morosche Salbenreaktion 眼反應、Calmettesche Ophthalmoreaktion, Wolff-Eisnersche Konjunktivalreaktion, 皮膚反應、Pirquetsche Kutanreaktion 皮内反應、Mantoux u. Rouxsche Intrakutanreak-

tion 等アリ。余ハ是レ等ノ術式中副作用少ナク、操作簡易一シテ、反應鋭敏確實ナリト稱セラル、Mantoux u. Roux ノ方法ニヨル皮内注射ヲ採用セリ。

注射材料及ビ注射方法。注射液ハ傳染病研究所製造ニ係ル舊「ツベルクリン」原液ヲ0.5%石炭酸加滅菌生理的食鹽水ヲ以テ2000倍ニ稀釋セル溶液ヲ作製シタリ。ソノ0.1㏍ヲ上膊伸側部皮膚ニ於テ、皮内ニ注射セリ。注射直後ハ皮膚面ニ蒼白色ノ丘疹様隆起ヲ生ジタリ。

反應成績ノ判定。「ツベルクリン」反應成績ノ判定標準ニ關シテハ規矩ノ一定セルモノナシ。余ハ諸家ノ說ヲ參考シテ次ノ基準ヲ假定セリ。即チ、注射後第48時間ニ於テ、局處ニ注射刺痕ヲ

貽サルカ、又ハ僅ニ貽スモノ、及ビ紅色暈ノ直徑5耗以下ナル時ハ陰性(一)トナシ、紅色暈及ビ浸潤硬結ノ直徑6耗乃至10耗ナル時ハ弱度陽性(+), 11耗乃至15耗ナル時ハ中等度陽性(++)、16耗以上ナル時ハ強度陽性(+++)トナシ、以上ノ4型ヲ以テ「ツベルクリン」反應成績ヲ判定セリ。紅色暈及ビ浸潤硬結ハ數日後漸次ニ消滅スルヲ普通トスレド、1例ニ於テ水泡ヨリ潰瘍ニ移行シ長時日ヲ要シテ漸ク治癒シタルヲ見

タリ。其ノ他ニ於テハ、不快ナル副作用ヲ來シタルモノ、又ハ發熱等ニヨリテ缺席セルモノヲ認メザリキ。

「レントゲン」透視ニヨル胸部所見。「ツベルクリン」反應陽性兒童ノ全部ニ就キテ、胸部ノ「レントゲン」透視ニヨリテ結核性病變ノ有無及ビツノ状態ヲ検査シ、尚ホ必要ニ應ジテ胸部透視寫眞ノ撮影ヲモ行ヒタリ。

第二章 觀察成績

第一項 「ツベルクリン」反應成績

(イ) 「ツベルクリン」反應ノ陽性率

兒童209名ニ就キテ「ツベルクリン」反應陽性率ヲ求メタリ。ソノ成績ヲ第1表ニ掲ゲタリ。表ノ示ス所ニヨレバ、被檢者209名中陽性兒童75名(35.9%)、陰性兒童134名(64.1%)ナリ。性別ニヨリテ觀察スルニ、男子90名中陽性兒童30名(33.3%)、陰性兒童60名(66.7%)、女子119名中陽性兒童45名(37.8%)、陰性兒童74名(62.2%)ナリ。男子ニ於ケルニ比シテ女子ニ於テハ、陽性率僅ニ勝レリ。

第1表 「ツベルクリン」反應陽性率

| 性別 | 検査人員 | 陽 性 | | 陰 性 | |
|----|------|-----|------|-----|------|
| | | 實數 | 百分率% | 實數 | 百分率% |
| 男 | 90 | 30 | 33.3 | 60 | 66.7 |
| 女 | 119 | 45 | 37.8 | 74 | 62.2 |
| 計 | 209 | 75 | 35.9 | 134 | 64.1 |

今本邦及ビ外國ニ於ケル兒童ノ「ツベルクリン」反應成績ヲ一括シテ第2表ニ掲ゲタリ。該表ヲ通覽スルニ、年齢、生活環境或ハ検査方法等ニヨリテ、ソノ陽性率ハ多少ノ異同ヲ免レザルモ、略ボ都市及ビ郡部ニ於ケル結核感染頻度ノ概數ヲ推定シ得ベシ。一般ニ「ツベルクリン」反應陽性率ハ、都市ニ於テハ郡部ニ於ケルニ比シテ著シク高率ヲ示スモ、余ノ調査セル東京市兒童ノ陽性率ハ他ノ都市ニ於ケルニ比シテ比較的低率ヲ示セリ。

第 2 表

各地方ニ於ケル「ツベルクリン」反應陽性率

| 報 告 者 | 檢 査 地 | 陽性率% | 検査方式 |
|--------------|---------|------|------|
| 野 村 | 東 京 市 | 36.3 | m |
| 新 井 | „ | 47.7 | m |
| 平 澤・高 橋 | „ | 72.1 | m |
| 岩 淵 | „ | 85.0 | m |
| 高橋・古林・古屋 | „ | 78.9 | P |
| 鎮 目 | „ | 43.4 | P |
| 高橋・松本・黒田 | 名 古 屋 市 | 26.5 | m |
| 阪 井・齋 藤 | 京 都 市 | 77.3 | P |
| 酒 井 | 大 阪 市 | 45.6 | P |
| 岩 崎 | „ | 43.1 | m |
| 吉 見・松 田 | 金 澤 市 | 41.4 | P |
| 高 田 | 富 山 市 | 30.7 | P |
| 砂 川 | 奈 良 市 | 35.5 | m |
| 宇 留 野 | 廣 島 市 | 45.1 | m |
| 伊 藤 | 福 岡 市 | 48.6 | P |
| 丸 岡 | 入 幡 市 | 26.1 | P |
| 橋 積 | 那 覇 市 | 43.9 | m |
| 井 出・渡 部 | 水 戸 市 | 19.9 | m |
| 佐 藤・大 村 | 盛 岡 市 | 26.9 | P |
| 有 馬 | 札 幌 市 | 42.0 | P |
| 鄭 | 京 城 市 | 47.8 | m |
| 瀨 脇 | 東 京 市 外 | 17.1 | P |
| 伊 阪 | 大 阪 府 下 | 20.0 | m |
| 阪 井 | 島 根・山 口 | 32.1 | P |
| 鈴 木 | 靜 岡 縣 下 | 24.6 | P |
| 百 崎 | 佐 賀 市 外 | 20.1 | P |
| 井 上 | 入 幡 市 外 | 24.8 | m |
| Grevenbroich | 獨 逸 | 30.1 | P |
| Frenzel | „ | 85.0 | P |

| | | | |
|----------------------|-------|------|---|
| Deuster | „ | 68.6 | P |
| Bruching | „ | 47.4 | P |
| Boyd | 米 國 | 19.1 | m |
| Hetherington | „ | 43.1 | P |
| Johnston a. Chadwick | „ | 17.9 | m |
| Ferguson | „ | 44.4 | P |
| Nobécourt et Briskar | 佛・巴 里 | 65.0 | P |
| Mándy u. Petrilla | 洪 牙 利 | 24.5 | P |
| Frustner | 和 蘭 | 26.5 | P |

(ロ) 「ツベルクリン」反應陽性型ノ分佈

「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ就キテ、各陽性型ノ分佈ヲ第 3 表ニ掲ゲタリ。該表ノ示ス所ニヨレバ、陽性兒童 75 名中弱度陽性ナルモノハ 32 名 (42.7%)、中等度陽性ナルモノハ 35 名 (46.7%)、強度陽性ナルモノハ、8 名 (10.7%) ナリ。即チ中等度陽性ナルモノハ最も多く、弱度陽性ナルモノハ稍々之レニ劣リ、強度陽性ナルモノハ最も少シ。性別ニヨリテ觀察スルニ、男子 30 名中弱度陽性ナルモノハ 17 名 (56.7%)、中等度陽性ナルモノハ 10 名 (33.3%)、強度陽性ナルモノハ 3 名 (10.0%) ナリ。即チ、弱度陽性ナルモノハ全數ノ過半ヲ占メテ最も多く、中等度陽性ナルモノハ之レニ次ギ、強度陽性ナルモノハ最も少ナシ。女子 45 名中弱度陽性ナルモノハ 15 名 (33.3%)、中等度陽性ナルモノハ 25 名 (55.6%)、強度陽性ナルモノハ 5 名 (11.1%) ナリ。即チ、中等度陽性ナルモノハ全數ノ過半

第 4 表 「ツベルクリン」反應ト胸部所見トノ關係

| 性別 | 検査人員 | 透視陰性 | | 透視陽性 | | 肺門淋巴 | 肺腫灰化竈 肺門淋巴ニ 腺石 | 初群 期變 化 | 初 期 浸 潤 | 肺灰 化部 竈石 | 肋 膜 癒 著 | 肋ニ灰 化竈 癒著部 竈 |
|----|------|------|------|------|------|------|----------------------|---------------|------------------|----------------|------------------|-----------------------|
| | | 實數 | 百分率% | 實數 | 百分率% | | | | | | | |
| 男 | 30 | 9 | 30.0 | 21 | 70.0 | 9 | 4 | 3 | 0 | 4 | 1 | 0 |
| 女 | 45 | 19 | 42.2 | 26 | 57.8 | 6 | 1 | 3 | 1 | 13 | 0 | 2 |
| 計 | 75 | 28 | 37.3 | 47 | 62.7 | 15 | 5 | 6 | 1 | 17 | 1 | 2 |

カ、ル「レントゲン」像陽性兒童 21 名ニ就キテ結核性變化ヲ分類スルニ、9 名ハ肺門淋巴腺腫脹、各 4 名ハ肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈及ビ肺門部石灰化竈、3 名ハ初期變化群、1 名ハ肋膜癒著ヲ示セリ。女子 45 名中結核性變化ヲ認

テ占メテ最も多く、弱度陽性ナルモノハ之レニ次ギ、強度陽性ナルモノハ最も少ナシ。

第 3 表 「ツベルクリン」反應陽性型ノ分佈

| 性別 | 陽性者 | + | | ++ | | +++ | |
|----|-----|----|------|----|------|-----|------|
| | | 實數 | 百分率% | 實數 | 百分率% | 實數 | 百分率% |
| 男 | 30 | 17 | 56.7 | 10 | 33.3 | 3 | 10.0 |
| 女 | 45 | 15 | 33.3 | 25 | 55.6 | 5 | 11.1 |
| 計 | 75 | 32 | 42.7 | 35 | 46.7 | 8 | 10.7 |

第二項 「レントゲン」像ニヨル胸部透視成績

(イ) 「ツベルクリン」反應ト胸部所見トノ關係

「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ就キテ「レントゲン」ニヨル胸部ノ透視ヲ行ヒ、ソノ觀察成績ヲ第 4 表ニ掲ゲタリ。該表ノ示ス所ニヨレバ、陽性兒童 75 名中、透視ニヨリテ結核性變化ヲ認メザリシモノ 28 名 (37.3%)ニ對シテ、結核性變化ヲ認メシモノ 47 名 (62.7%)ヲ示セリ。カ、ル「レントゲン」像陽性兒童 47 名ニ就キテ結核性變化ヲ分類スルニ、17 名ハ肺門部石灰化竈、15 名ハ肺門淋巴腺腫脹、6 名ハ初期變化群、5 名ハ肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈、2 名ハ肋膜癒著竝ビニ肺門部石灰化竈、各 1 名ハ肋膜癒著及ビ初期浸潤ヲ示セリ。性別ニヨリテ觀ルニ、男子 30 名中結核性變化ヲ認メザリシモノ 9 名 (30.0%)ニ對シテ、結核性變化ヲ認メシモノ 21 名 (70.0%)ヲ示セリ。

メザリシモノ 19 名 (42.2%)ニ對シテ、結核性變化ヲ認メシモノ 26 名 (57.8%)ヲ示セリ。カ、ル「レントゲン」像陽性兒童 26 名ニ就キテ結核性變化ヲ分類スルニ、13 名ハ肺門部石灰化竈、6 名ハ肺門淋巴腺腫脹、3 名ハ初期變化群、2 名

ハ肋膜癒著竝ビニ肺門部石灰化竈、各 1 名ハ肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈及ビ初期浸潤ヲ示セリ。即チ、男子ニ於テハ肺門淋巴腺腫脹ヲ示スモノ最モ多ク、女子ニ於テハ肺門部石灰化竈ヲ示スモノ最モ多シ。男子ニ於テハ女子ニ於ケルニ比シテ結核性變化ヲ認ムルコト多ク、又男女何レニ於テモ、「レントゲン」像陽性兒童ハ「レントゲン」像陰性兒童ニ比シテ甚ダ多數ナルコトヲ知ル。

最近 Boyd 氏(1935 年)ガ晚香波市小學校第一學年兒童ニ於テ調査シタル成績ハ次ノ如シ。同小學校ニ於テハ米人ノ他ニ日本人及ビ支那人ノ兒童ヲモ收容セリ。

| 人種別 | 検査人員 | 透視陰性 | 透視陽性 | 疑ハシキ者 | 陽性者ニ對スル百分率 |
|-----|------|------|------|-------|------------|
| 白人 | 155 | 136 | 16 | 3 | 10.3 |
| 日本人 | 23 | 18 | 5 | 0 | 21.7 |
| 支那人 | 11 | 7 | 4 | 0 | 36.4 |

第 5 表 「ツベルクリン」反應陽性型ト結核性變化トノ關係

| 性別 | 検査人員 | 「ツ」反應 「レ」所見 | + | | ++ | | +++ | |
|----|------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| | | | + | - | + | - | + | - |
| 男 | 30 | 「ツ」反應 | 17 | | 10 | | 3 | |
| | | 「レ」所見 | 11(64.7%) | 6(35.3%) | 7(70%) | 3(30%) | 3(100.%) | 0(0%) |
| 女 | 45 | 「ツ」反應 | 15 | | 25 | | 5 | |
| | | 「レ」所見 | 8(53.3%) | 7(46.7%) | 15(60.0%) | 10(40.0%) | 3(60.0%) | 2(40.0%) |
| 計 | 75 | 「ツ」反應 | 32 | | 35 | | 8 | |
| | | 「レ」所見 | 19(59.4%) | 13(40.6%) | 22(62.9%) | 13(37.1%) | 6(75.0%) | 2(25.0%) |

同陰性者 6 名(35.3%)、「ツベルクリン」反應中等度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 7 名(70.0%)、同陰性者 3 名(30.0%)、「ツベルクリン」反應強度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」陽性者 3 名(100.0%)、同陰性者零ヲ示セリ。女子 45 名中「ツベルクリン」反應弱度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 8 名(53.3%)、同陰性者 7 名(46.7%)、「ツベルクリン」反應中等度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 15 名(60.0%)、同陰性者 10 名(40.0%)、「ツベルクリン」反應強度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 3 名(60.0%)、同陰性者 2 名(40.0%)ヲ

示セリ。一般ニ各陽性型ニ就キテ觀ルニ、男女何レニアリテモ「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ於テハ、陰性兒童ニ於ケルニ比シテ結核性變化ヲ認ムルコト多シ。又陽性型強度トナルニ從ヒテ結核性變化ヲ認ムル率多シ。又男子ニアリテハ「ツベルクリン」反應弱度陽性者ニ於テ、結核性變化ヲ認ムルコト最モ多ク、女子ニアリテハ「ツベルクリン」反應中等度陽性ニ於テ、結核性變化ヲ認ムルコト最モ多シ。

各型反應陽性者ニ於ケル結核性變化ヲ分類シテ第 6 表ニ掲ゲタリ。該表ノ示ス所ニヨレバ、「ツベルクリン」反應弱度陽性兒童 19 名中、12 名ハ米人兒童ニ於テ「レントゲン」像陽性兒童 10.3%ヲ示セリ。同ジク米國ニ於テ Johnston and Chadwick 氏(1933 年)ハ 31.0%ナルコトヲ報告セリ。

(ロ) 反應陽性型ト胸部所見トノ關係
「ツベルクリン」反應陽性兒童ノ陽性型ト、「レントゲン」像透視ニヨル結核性變化トノ關係ヲ觀察シテ、第 5 表ニソノ成績ヲ掲ゲタリ。該表ノ示ス所ニヨレバ、「ツベルクリン」反應陽性兒童 75 名中該反應弱陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 19 名(59.4%)、同陰性者 13 名(40.6%)、該反應中等度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 22 名(62.9%)、同陰性者 13 名(37.1%)、該反應強陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 6 名(75.0%)、同陰性者 2 名(25.0%)ヲ示セリ。是レテ性別ニヨリテ觀察スルニ、男子 30 名中「ツベルクリン」反應弱度陽性者ニ於テハ、「レントゲン」像陽性者 11 名(64.7%)、

示セリ。一般ニ各陽性型ニ就キテ觀ルニ、男女何レニアリテモ「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ於テハ、陰性兒童ニ於ケルニ比シテ結核性變化ヲ認ムルコト多シ。又陽性型強度トナルニ從ヒテ結核性變化ヲ認ムル率多シ。又男子ニアリテハ「ツベルクリン」反應弱度陽性者ニ於テ、結核性變化ヲ認ムルコト最モ多ク、女子ニアリテハ「ツベルクリン」反應中等度陽性ニ於テ、結核性變化ヲ認ムルコト最モ多シ。

各型反應陽性者ニ於ケル結核性變化ヲ分類シテ第 6 表ニ掲ゲタリ。該表ノ示ス所ニヨレバ、「ツベルクリン」反應弱度陽性兒童 19 名中、12 名ハ

第 6 表

「ツベルクリン」反應陽性型ト結核性變化ノ分類

| 性別 | 検査人員 | 「ツベルクリン」反應 | 肺門淋巴腺腫 | 肺門淋巴腺腫並ニ石灰化竈 | 初期變化群 | 初期浸潤 | 肺門部石灰化竈 | 肋膜癒著 | 肋膜癒著並ニ肺門部石灰化竈 |
|----|------|------------|--------|--------------|-------|------|---------|------|---------------|
| 男 | 11 | + | 5 | 1 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 女 | 8 | + | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 |
| 男 | 7 | ++ | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 女 | 15 | ++ | 5 | 1 | 3 | 1 | 4 | 0 | 1 |
| 男 | 3 | +++ | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 女 | 3 | +++ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 19 | + | 5 | 1 | 1 | 0 | 12 | 0 | 0 |
| | 22 | ++ | 8 | 3 | 4 | 1 | 4 | 1 | 1 |
| | 6 | +++ | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |

肺門部石灰化竈、5名ハ肺門淋巴腺腫脹、各1名ハ初期變化群及ビ肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈ヲ示ス。「ツベルクリン」反應中等度陽性兒童22名中、8名ハ肺門淋巴腺腫脹、各4名ハ初期變化群及ビ肺門部石灰化竈、3名ハ肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈、各1名ハ初期浸潤、肋膜癒著、肋膜癒著並ニ肺門部石灰化竈ヲ示セリ。「ツベルクリン」反應強度陽性兒童6名中、2名ハ肺門淋巴腺腫脹、各1名ハ肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈、初期變化群、肺門部石灰化竈、肋膜癒著並ニ肺門部石灰化竈ヲ示

セリ。是レヲ性別ニヨリテ觀察スルニ、男子ニ於テハ「ツベルクリン」反應弱度陽性兒童11名中、5名ハ肺門淋巴腺腫脹、4名ハ肺門部石灰化竈、各1名ハ初期變化群、肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈ヲ示セリ。「ツベルクリン」反應中等度陽性兒童7名中、3名ハ肺門淋巴腺腫脹、2名ハ肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈、各1名ハ初期變化群及ビ肋膜癒著ヲ示セリ。「ツベルクリン」反應強度陽性兒童3名中、肺門淋巴腺腫脹ヲ示セルモノ1名、初期變化群ヲ示セルモノ1名、肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈ヲ示セルモノ1名ナリ。女子ニ於テハ「ツベルクリン」反應弱度陽性兒童8名ハ、全部肺門部石灰化竈ヲ示セリ。「ツベルクリン」反應中等度陽性兒童15名中、5名ハ肺門淋巴腺腫脹、4名ハ肺門部石灰化竈、3名ハ初期變化群、各1名ハ初期浸潤、肺門淋巴腺腫脹並ニ石灰化竈、肋膜癒著並ニ肺門部石灰化竈ヲ示セリ。「ツベルクリン」反應強度陽性兒童3名中、肺門淋巴腺腫脹ヲ示セルモノ1名、肺門部石灰化竈ヲ示セルモノ1名、肋膜癒著並ニ肺門部石灰化竈ヲ示セルモノ1名ナリ。概シテ「ツベルクリン」反應弱度陽性者ニ於テハ肺門部石灰化竈ヲ見ルコト多ク、中等度陽性及ビ強度陽性ニ於テハ肺門淋巴腺腫脹ヲ見ルコト多シ。

第三章 梗概

余ハ東京市舊市域ニ於ケル小學校兒童209名ニ對シテ、「ツベルクリン」反應ノ検査ヲ試ミ、尙ホ反應陽性兒童ニ對シテ、「レントゲン」像ニヨル胸部ノ透視ヲ行ヒタリ。ソソノ成績ヲ概括スレバ次ノ如シ。

- (1) 「ツベルクリン」反應陽性率ハ男子兒童ニ於テ33.3%、女子兒童ニ於テ37.8%ヲ示シ、男女ヲ通計スレバ35.9%ヲ示セリ。女子ニ於テハ男子ニ於ケルニ比シテソノ陽性率ハ稍々高シ。
- (2) 「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ於ケル陽性型ノ分佈ヲ觀ルニ、ソノ42.7%ハ弱度陽性

ヲ、ソノ46.7%ハ中等度陽性ヲ、ソノ10.7%ハ強度陽性ヲ示セリ。是レヲ性別ニヨリテ觀ルニ、男子ニ於テハソノ56.7%ハ弱度陽性ヲ、ソノ33.3%ハ中等度陽性ヲ、ソノ10.0%ハ強度陽性ヲ示セリ。女子ニ於テハソノ33.3%ハ弱度陽性ヲ、ソノ55.6%ハ中等度陽性ヲ、ソノ11.1%ハ強度陽性ヲ示セリ。

- (3) 「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ就キテ胸部ノ「レントゲン」像透視ヲ行ヒタル結果、ソノ62.7%ニ於テ結核性變化ヲ認メ、ソノ37.3%ニ於テ結核性變化ヲ認メザリキ。是レヲ性別ニヨリテ觀ルニ、男子ニアリテハソノ70.0%ニ

於テ結核性變化ヲ認メ、ソノ 30.0%ニ於テ結核性變化ヲ認メザリキ。女子ニアリテハソノ 57.8%ニ於テ結核性變化ヲ認メ、ソノ 42.2%ニ於テ結核性變化ヲ認メザリキ。

(4) 「ツベルクリン」反應陽性兒童ニ於ケル結核性變化ヲ分類スルニ、肺門部石灰化竈及ビ肺門淋巴腺腫脹ヲ見ルコト甚ダ多ク、初期變化群及ビ肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈ヲ見ルコト稍々多ク、初期浸潤、肋膜癒著、肋膜癒著竝ビニ肺門部石灰化竈ヲ見ルコトハ比較的少ナシ。是レヲ性別ニヨリテ觀ルモ略々同様ノ關係ヲ認メタリ。

(5) 「ツベルクリン」反應陽性型ト結核性變化トノ關係ヲ觀ルニ、何レノ陽性型ニ於テモ結核性變化ノ存在ヲ認ムルコト多シ。各陽性型ニヨ

リテ結核性變化ヲ分類スルニ、弱度陽性者ニ於テハ、肺門部石灰化竈及ビ肺門淋巴腺腫脹ヲ見ルコト甚ダ多ク、初期變化群及ビ肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈ヲ見ルコト少シ。中等度陽性者ニ於テハ、肺門淋巴腺腫脹ヲ見ルコト最モ多ク、初期變化群、肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈及ビ肺門部石灰化竈ヲ見ルコト稍々多ク、初期浸潤、肋膜癒著及ビ肋膜癒著竝ビニ肺門部石灰化竈ヲ見ルコト少シ。強度陽性者ニ於テハ、肺門淋巴腺腫脹、初期變化群、肺門淋巴腺腫脹竝ビニ石灰化竈及ビ肺門部石灰化竈ヲ見ルコト何レモ少ナシ。是レヲ性別ニヨリテ觀ルモ略々同様ノ關係ヲ認メタリ。

擱筆ニ臨ミ校閲ノ勞ヲ賜ハリタル恩師川上教授ニ對シ謹ミテ感謝ノ意ヲ表ス。

文 獻

1) **Boyd**, The incidence of tuberculosis in children entering primary schools in Vancouver. The American Review of Tbc. 34. 1936. 2) **Deuster**, Vergleichende Untersuchungen über v. Pirquets Kutan- und Hamburgers Perkutane Tuberculin-Reaktion. Dtsch. med. Wschr. 56. 1930. 3) **Engel u. Pirquet**, Handbuch der Kindertuberculose Bd. I, II, 1930. 4) **Engel**, Beiträge zur Tuberculosedignose im Kindesalter. Dtsch. med. Wschr. 11. 1911. 5) **Frenzel**, Ein Vergleich über die Brauchbarkeit verschiedener Tuberculin für die Pirquetsche Reaktion. Monatschr. f. Kinderheilkunde 24. 1923. 6) **Hamburger**, Allgemeine Pathologie u. Diagnostik der Kindertuberculose. Leipzig. 1910. 7) **伊坂**, 大阪府郡部小學兒童ノ「ツ」皮内反應ノ成績。結核。第十四卷。昭和十一年。8) **井出, 渡部**, 茨城縣地方學童 Mantoux 皮内反應檢査成績竝ニ之レト頸部淋巴腺腫脹トノ關係ニ就テ。結核。第十四卷。昭和十一年。9) **岩崎**, 大阪市某小學校兒童ノ「ツ」皮内反應。結核。第九卷。昭和六年。10) **Johnston u. Chadwick**, Childhood tuberculosis

in Detroit. Am. Rev. Tub. 28. 1933. 11) **Mandy u. Petrilla**, Die Tuberkulinreaktion der Schulkinder in der Kunság. Ref. Zsch. f. Tbc. 59. 1934. 12) **Möller**, Über Kutane u. intrakutane Tuberkulinimpfung unter Verwandung abgestufter Dosen u. ihre Bedeutung für die Diagnose der Tbc. Dtsch. med. Wschr. 11. 1911. 13) **Nobécourt et Briskar**, Cutiréactions á la tuberculine chez les enfants de 6 á 10 ans. Press. méd. 46. 1936. 14) **野村**, 特殊兒童ノ結核調査。日本學校衛生。第二十卷。昭和七年。15) **Peretti-Grevenbroich**, Planmässige Tuberkulin- u. Röntgenreihe-untersuchungen an 5435 Schulkindern. Zeit. f. Gesundheitsverwaltung u. Gesundheitsfürsorge. 24. 1932. 16) **砂川**, 奈良縣中小學生ニ於ケル「ツ」皮内反應ノ成績。結核。第十三卷。昭和十年。17) **高橋, 上林, 古屋**, 小學校兒童ニ於ケル潜伏性結核ニ就テ。日本醫科大學雜誌。第五卷。昭和九年。18) **山田**, 岐阜市内一毛絲紡績工場女工ノ赤血球沈降速度ト「ツ」皮内反應。結核。第十三卷。昭和十年。